

漁場の地形や魚族の去来集散の様子が判然とわかつて来たのは暖流調査以来のことであるが、それも大体距岸三〇—四〇浬以内の水域で、それから先の水域は一知半解の状態である。もつと沖合の海や水族の実態を把んで、開発するに足る資源があるか、ないかを早急に決めたいものである。昭和の初めから戦前にかけて、大体こんな意図の下に沖合調査が、日本海沿岸の各県で時に実施された事もあるが、それ等は組織的でなく、断片的であつたので、これと云つた頗著な実効を挙げることも出来ない。

日本海の漁業は、日帰り航程内にある水域を漁場としている程度で、一航海二日もかかると云うような漁場に往復するものは殆んどない。尤も以前、沿海州に出漁した頃は、一週間もの航程をもつ渔船もかつて

# 日本海連絡工事

発行所  
日本海区水産研究所  
印 刷 所  
株式会社 第一印刷所

月頃北緯三九一四〇度の間にはば東西に延びてゐる極前線の動きを光明に把握したいものである。

いる。またそこには、鮭の稚魚を飽食したマスが漁れたり、オットセイが群をなしていたりと試験担当者の本間孫四郎氏が語つてゐることは多大の示唆を与えるものである。

来年はこの問題の極前線の動きを三四月頃から、七月頃までに亘つて追跡し、そこでサケマスの流網漁業を少なくとも福井県以北の各県水試が共同連絡して、実施したら、実効的な沖合開発の第一歩を踏み出すことになるわけで、今まで実施して來た暖流開拓と密接に結びつけることになる。

## 日本海沖合のマス漁場について

武田初男

近年山形県沿岸にマスの回游が多くなり、マス一本釣漁業が急激に発達してきたので、水試としては、これを流網で漁獲することも可能であらうとの見地からここ三四年來その準備を進め、昭和二九年に試験船拓洋丸で魚道調査を行なつたしかし、ほとんど漁獲らしいものは見られなかつた。その原因は、投網數が僅か三反で、網数が少なかつたことにもよるであろうが、最も根本的な誤りは、距岸二、三マイルでマスが釣獲されることからごく沿岸に投網したことが一つの理由であろう。そこで、もとと沖合の魚道を探索し

卷之三

游が多くなり、マス一本漁業が急激に発達してきるので、水試としては、こ

当な漁船漁具がなく、やむを得ず民間船に委託して、昭和三〇—三一年の二カ年間調査を実施した。

この二ヵ年調査の結果、日本海北部のマス漁場は、かなり沖合に形成されるのではないかという見通しが強くなつた。つまり

潔男夫

第68号  
内橋  
いて  
武田 夜  
力  
普及会議  
楠本 俊  
来所

項目  
振興  
漁場につ  
するイル  
技術改良  
の開拓  
公務員  
察のため

る項  
合漁業の  
合のマス  
つて知覚  
日本漁業  
開発漁場  
シヤ青年  
良漁業視察  
雑観

主な  
日本海沖  
日本海沖  
影響によ  
第2回南  
日本海未  
インドネ  
底曳  
浅海増殖  
を告

○ 日  
○ 日  
○ 音  
○ 第  
○ 日  
○ 人  
○ 漢  
○ 于

昭和三〇年度は操業海域が距岸五哩以内と  
いう制限があつたため、島海礁附近にまで  
しか出漁せず、一反当りの羅網率は、最高  
一尾程度であったが、昭和三一年度はこの  
制限を徹底して、沖合操業を行なつた結果  
最高二六尾もの漁獲があつた、また水温と  
羅網率の関係を調べると、表面水温九度し  
十度附近にピークがあり、盛漁期である四  
月から五月にこの水温を示している水帶は  
かなり沖合に存在するのが普通であるので  
沿岸に於ける操業はあまり香しくないと思  
われる。そして、この九一〇度の水帶は  
暖水帶にはさまれて顯著な潮目を形成して  
いる時に好漁場となる場合が多い、という  
のは、漁期中のマスの生殖腺を見ると、四  
月初旬に平均七グラムであつたものが五月  
中旬には三〇グラム程度まで発達してお  
り、それと共にイワシ類、葉脚類などの摂  
餌が増加しているので、これらの小生物が  
多く分布する潮目が好漁場を形成するもの  
と考えられる。このような条件をそなえて  
いる水域は、漁期が進むにつれて北に移動  
するのが当然であり、本県沖の操業は五月  
に入るとほとんど不可能になつてくるの  
で、本年度は四月初旬から六月下旬まで三  
回の試験を行ないマス三六、〇〇〇尾の  
他サメ、イワシなどで約四五〇万円の収入  
があつたが、試験の初期に漁獲が多く後期  
は、あまり良い結果を得られなかつたの  
で、秋田、青森の二県と入合が出来れば、  
利益は飛躍的に増大するであろう。本漁業  
を安定した漁業として企業化するためには、  
二〇〇哩位まで出漁出来る船で、少く  
とも百五〇反の漁網を持ち、三月早期に沖  
合三〇〇哩程度の海洋観測を行なつて、マ  
スの洄游適水帶の発見につとめる他に、前  
記の隣接県との入会が絶対に不可缺な条件  
戴ければ幸いである。

(筆者山形県水産試験場長)  
であり、出来れば石川県沖から青森県沖ま  
で一貫した操業形態をとるのが理想である  
ので、日本海北部各県の理解ある御援助を  
戴ければ幸いである。

## 音響によつて知覚するイルカ

ウツヅ・ホール海洋研究所のW·E·シュヴィル氏  
は、フロリダ州、マリンランドの水族館の管理者であ  
つたのでA·F·マックブライト氏の未発表の手稿中  
から、イルカの習性に関する次のような興味深い記録  
を見出した。ちなみに、マックブライト氏は、小型イルカの飼育にかけては、世  
界的にその名を知られて  
いた人である。

第二回南日本漁業技術改良普及会議は八  
月一日、二日の両日島根県水産試験場講堂

福井県

三、昭和卅年度各県実施報告（漁業試験）

## 改良普及会議開催される

## 第一回南日本漁業技術

イルカのこのような行動は、暗黒のなか  
で音波の発振をたえず受けながら障害物を  
さけて飛ぶコウモリの習性を想起させ  
である。  
（Deep-Sea Res. Vol.3 No.2より  
西村三郎譲官抄訳）

西村三郎  
譲官抄訳

長い間、イルカ（*Tursiops truncatus*）の  
捕獲に従事して来た漁夫のひとりは、私に  
次のように語つた。イルカは、ボラなどの  
小型魚を目的とする普通の巾着網では、決  
して獲れるものではない。というのは、た  
とえ網に巻かれても、浮子網をとびこして  
逃げてしまうからである。しかし、目合の  
長さ一〇インチの粗い網を使うと、イルカ  
はほとんど逃がすことなく捕えることがで  
きる。ただ、この場合にも、ほかのイルカ  
が網にぶつかって浮子網が水中に没したよ  
うな時には、その上をのりこえて逃げざる  
ことがある。

この漁夫の観察の中で、次の二点が注目  
される。その第一は、イルカは、視覚の効  
かない条件の下で（この観察がなされたの  
は非常に混濁した水中であつたし、また、  
イルカは夜間捕獲されるものである）網目  
の細かい網と粗い網とを、識別したとい  
うことである。その第二は、浮子網が水中に  
引込まれた時は、巻かれた網のなかを泳  
分をとびこえて逃げてしまつたということ  
である。

（左記のとおりである。尙会議の概要  
は左記のとおりである。

（一）現状のとおりである。  
（二）島根県水産試験場長挨拶  
（三）福井県水産試験場長挨拶

（一）タイ三重底刺網  
（二）曳縄釣りの改良  
（三）曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（一）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（二）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（三）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

業經營の多角化試験は是非実施したいむね  
の発言があつた。

（一）ブリ立縄釣り漁業

（二）従来実施してきた事をより一層効果をあげるよう  
努力し、べつだん新しい構想は考えていい  
い。しかし今後普及事業は集約的に行なう必  
要性があり、研究グループを中心とした漁  
業經營の多角化試験は是非実施したいむね  
の発言があつた。

（三）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（四）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（五）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（六）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（七）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（八）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（九）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（十）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（十一）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（十二）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（十三）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（十四）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（十五）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（十六）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（十七）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（十八）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（十九）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（二十）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（二十一）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（二十二）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（二十三）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（二十四）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（二十五）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（二十六）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（二十七）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（二十八）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（二十九）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（三十）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（三十一）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（三十二）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（三十三）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（三十四）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（三十五）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（三十六）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（三十七）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（三十八）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（三十九）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（四十）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（四十一）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（四十二）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（四十三）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（四十四）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（四十五）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（四十六）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（四十七）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（四十八）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（四十九）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（五十）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（五十一）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（五十二）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（五十三）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（五十四）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（五十五）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（五十六）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（五十七）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（五十八）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（五十九）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（六十）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（六十一）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（六十二）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（六十三）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（六十四）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（六十五）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（六十六）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（六十七）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（六十八）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（六十九）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（七十）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（七十一）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（七十二）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（七十三）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（七十四）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（七十五）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（七十六）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（七十七）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（七十八）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（七十九）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（八十）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（八十一）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（八十二）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（八十三）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（八十四）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（八十五）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（八十六）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（八十七）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（八十八）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（八十九）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（九十）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（九十一）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（九十二）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（九十三）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（九十四）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（九十五）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（九十六）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（九十七）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（九十八）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（九十九）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（一百）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（一百一）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（一百二）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（一百三）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（一百四）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（一百五）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（一百六）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（一百七）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（一百八）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（一百九）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（一百十）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（一百十一）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（一百十二）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（一百十三）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（一百十四）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（一百十五）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（一百十六）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（一百十七）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつたがまだ充分  
な効果はあつてない。

（一百十八）従来の延繩漁業にかえて三重底刺網を実  
施し好成績をおさめているがまだ全般的には普及されていない。

（一百十九）魚探応用の延繩漁業  
この漁法は礁や海底地形の状況判断に非  
常に効果を發揮し漁獲も非常に良好で漸次  
普及しつつある。

（一百二十）従来の曳縄釣りに潜航板を利用し深度を  
一定にして曳航するようになつ

## 連 絡 一 ユ ニ

主として八〇〇匁前後のブリを目的とする。タイ立縄釣りをブリに応用したものである。結果は多大の成果をあげた船もあるが全般的にはあまりかんばしくない。

## (2) イナダ竿釣り漁業

魚群濃密な場合には曳釣りより漁獲能率がよくその点では一応の成功をおさめたが、魚群が散逸している場合は曳縄釣りよりもかんばしくないようである。

## (3) タイ立縄釣り漁業

前年度にひきつづき改良、研究を加え昨年より多大の効果をあげ全般的に普及しつつある。

## (4) マルゴはいから釣り

まだ実用のいきに達していない。

(5) ススキ一本釣りにおける開網の設置ススキ一本釣りのさい釣りあげた漁獲物を奪れないようにススキ築磯にワラ網でもつてコの字型に開網を設置しサメの防禦に成功した。このさい島根県の普及員よりサメの防禦には目的とするサメの頭を吊り下げておくと非常に効果があるむねの報告があつた。

## 兵庫県

## (1) 底曳網漁具の改良

底曳網漁業では新漁場の開拓に努力するとともに漁具に合成繊維、合成浮子を使用した。使用した合成繊維はサランとマルモロンであるがマルモロンは強度も強く漁獲も良好であった。サランは成績がかんばしくなかつた。合成浮子は水圧の関係で浮子としての効力を保持出来ず研究の余地が多分に残された。

(2) 一本釣りにおける先達船の応用、な

らびに優秀漁具の導入

り。

## 鳥取県

では魚探を装備した先達船が魚群の探査、漁場位置の決定にあたり、その指示のもとに各漁船は行動するような方法を行つて

て非常な効果をあげてきたのでこれを小羽

イワシ抄網は今までシラスを対象にし

ては沖合漁業とは大陸棚の外の海域で主として行われる漁業であると定義すけて考えると、現在日本海においては沖合漁業は殆んど行われて居ないと申しても過言でなく、この意味から未開発の沖合漁業を如何にして開発するかと云うことが課題である。

これが開拓の第一歩である。

沖合漁業の対象としては、浮魚と深海魚とに分けて考えられるが、深海魚については資源の発見でもない限り漁業としての発展を期待することが困難であろうと思われる。

沖合漁業として価値の有無を決定する資料が乏しい。更にマスク等も從来沿岸のみで漁獲されていても、本年山形県で沖合操業に成功したとか聞いているから、今後これ等の問題を鮮明にすることが必要である。

未開発の漁場は隅然の機会に

見出されることがあるが、それを期待していくには、いつの事であるかわからない。現在の行き詰つた沿岸漁業の困難を開拓するためには、沖合漁業の開発

が、沖合漁業として価値の有無を決定する資料が乏しい。更にマスク等も從来沿岸のみで漁獲されていても、本年山形県で沖合操業に成功したとか聞いているから、今後これ等の問題を鮮明にすることが必要である。

## 探 魚

## 日本海未開発漁場の開拓

## 楠 俊 夫

今後においても大發展

をするであらうことは期待することが困

難である。しかし、少くとも数種の魚に

は國と関係県が協力して、数隻の探査船

で海洋生物学的調査と漁撈試験を実施す

ることによつて沖合漁業の対象として期待

することが出来るだらう。

(秋田県水試場長)

## 島根県

## (1) 船曳網漁業の普及

を強いて計るべきであつて、そ

のためには組織調査が必要で、その方法

は國と関係県が協力して、数隻の探査船

で海洋生物学的調査と漁撈試験を実施す

ることが最も速く効果をあげ得る方法で

ある。

(秋田県水試場長)

## 島根県

## (2) 漁網カツチ染の固定

小中羽イワシを対象とした従来の敷網に

対し人員経費の節約を目的として船曳網漁業を実施し好結果をおさめたが最近山口県

で考案された浮敷網が当漁業以上に好成績

をあげているので漸次その方向にかわりつ

つある。

(秋田県水試場長)

## 島根県

## (2) トビウオ刺網の染網効果試験

結網の腐敗を防ぐためにカツチ

染めただけでなく、カツチ染めした綿糸

液を充分乾燥させたのち重クローム酸加里

液につけさらにそれを水洗いするという方

法を実施して好成績をおさめた。

### (三)曳繩釣りの改良

隱岐地方では曳繩漁業の生命ともいへば、底魚一本釣りはイサキを対象とし、登釣り用擬餌により漁法を夜間より昼間にきりかえ、非常に好成績をおさめた。現在この漁法は隠岐全島に普及しつつある。

(四) 底魚一本釣り漁法の改善

底魚一本釣りはイサキを対象とし、登釣り用擬餌により漁法を夜間より昼間にきりかえ、非常に好成績をおさめた。現在この漁法は隠岐全島に普及しつつある。

山口県

(一) イワシ流刺網色彩試験

大羽イワシ刺網の色の点については一応青色ならびに青紺が漁獲良好である事が報告されたが、試験の方法が不充分である事も指摘され、今後さらに研究する事になった。

(二) 飛魚流刺網漁業

飛魚流刺網についての大羽イワシ終了後の網の効果的活用ならびに当漁業の普及をはかるため実施された。結果としては浮子を強くする事によって網の捲巻状態の発生防止に成功し、網の色彩も青色が良好である事が確認され、一応の成功をおさめた。この様な飛魚の漁法として旋網と刺網ではないが、経営上有利であるからという論議がおこなわれたが結論は出なかつた。

(三) 小ブリまき刺網の改良

小ブリまき刺網は前年度にひきつきを改良を実施し、網の沈降をはやめる為、二〇〇匁程度の自然石を一間毎につけ好成績をおさめた。

四 各県要望事項  
各県より種々な要望事項が提示されたが、おもなものは旅費の増額、改良普及員に要する費用の国庫補助、改良普及員に対する研修会の開催、研究発表大会の審査基準、本事業の制度化などであつた。  
五、次回開催期日ならびに当番県  
当番県は鳥取県と決定し開催期日はなるべく六月頃開催されるよう各県より要望された。漁民との懇談会は第二日午後より開催され刺網、擬餌釣りについての論議がおこなわれたが具体的な事項についての発言が多かつたのが注目された。  
なお昭和卅一年度漁業試験の中間報告もあつたがこれは卅一年度実施報告中に含め、各水試の漁民との懇談会、研究会の開催、水産展示会等の報告もあつたがここには省略した。

インドネシア青年公務員

底曳漁業視察のため来所

印度ネシア青年公務員  
底曳漁業視察のため来所

インドネシア共和国農務省水産局に勤務するザイナル、アビデイン、ヨ、アフマツド両氏は底曳漁業視察及び寒地研究のため八月下旬来日したが、八月二十五、二十八の両日、日本水研を訪問、所員と底曳漁業等について懇談し、日本水研各研究室を見学した。両氏はさらに九月上旬日本水試銀山山口にて開催された水産展示会等の報告もあつたがここには省略した。

第五回対島暖流調査シンボジウム（水産庁主催）於農林省七階会議室  
自一〇月二日 至一〇月六日

第二七回動物学会（動物学会主催）  
於金沢大学理学部

自一〇月一〇日 至一〇月一二日

第九回沿岸資源及び底魚資源プロック会議（日本水研主催）  
於島根水試  
自一〇月一七日 至一〇月一九日

小川良徳 淡海増殖雑観

淺海增殖雜誌

小川良徳

第五回対島暖流調査シンポジウム（水産庁主催）  
自一〇月二日 至一〇月六日  
第二七回動物学会（動物学会主催）  
於金沢大学理学部  
自一〇月一〇日 至一〇月一二日  
第九回沿岸資源及び底魚資源プロック会議室（日本水研主催）  
於島根水試  
自一〇月一七日 至一〇月一九日

漁村の病憲は一部を除いては全般性でなく、慢性的な栄養不良で失調しているとみるべきではなかろうか、これにはカソフルより総合栄養剤が必要なのである。体力の回復こそ先決であるはずだ、また症状によつては或る種のビタミンの補給によつて治療できることもある。要は漁村に対し、真剣な観察なしに、やれビタミンだ、ホルモンだ、ネストンだといったよつて時代の流行におされた思いつきの投薬をしても無駄が多く、まぐれ当り的な効果しか期待できないのではないか。

漁村の労働、収入などの生活のサイクルを考慮し、これに適応する浅海増殖が考えられなければならないと思うのである。浅海増殖はカンフル的役割は果せないだろう。少くとも数ヶ月か一年以上の蕃殖管理を必要とするものだからである。農村が不作で困つたからといって果樹の苗木をうえようなもので、その効果をすぐに期待するまぬけがないのと同様だらう。

現在の浅海増殖事業の殆んどが国、県、市町村のいずれかの補助によつてなされてゐるようだ。これには地元負担金として $\frac{1}{2}$ を地元受益者が持たなければならぬ。地元負担の能力のないところはすて去られてしまふのである。つまり治療費のないものは死んでゆくより途がないということである。(香住支所蕃殖管理科)

九二  
巴  
卦

漁村の病憲は一部を除いては全般性でなく、慢性的な栄養不良で失調しているとみるべきではなかろうか、これにはカソフルより総合栄養剤が必要なのである。体力の回復こそ先決であるはずだ、また症状によつては或る種のビタミンの補給によつて治療できることもある。要は漁村に対し、真剣な観察なしに、やれビタミンだ、ホルモンだ、ネストンだといったよつて時代の流行におされた思いつきの投薬をしても無駄が多く、まぐれ当り的な効果しか期待できないのではないか。

漁村の労働、収入などの生活のサイクルを考慮し、これに適応する浅海増殖が考えられなければならないと思うのである。浅海増殖はカンフル的役割は果せないだろう。少くとも数ヶ月か一年以上の蕃殖管理を必要とするものだからである。農村が不作で困つたからといって果樹の苗木をうえようなもので、その効果をすぐに期待するまぬけがないのと同様だらう。

現在の浅海増殖事業の殆んどが国、県、市町村のいずれかの補助によつてなされてゐるようだ。これには地元負担金として $\frac{1}{2}$ を地元受益者が持たなければならぬ。地元負担の能力のないところはすて去られてしまふのである。つまり治療費のないものは死んでゆくより途がないということである。(香住支所蕃殖管理科)